

2020年10月15日

川辺川ダム建設促進協議会 会長 森本完一様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部明廣  
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃  
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康

代表連絡先 〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

TEL:090-2505-3880 中島 康

## 申し入れ書

私たちが9月25日に抗議したにもかかわらず、貴会は川辺川ダム建設を含む抜本的な治水対策を求める請願を熊本県議会に提出し、熊本県議会総務常任委員会は10月2日、その請願を賛成多数で採択しました。また10月8日、熊本県議会は貴会の請願を受け、「川辺川ダム建設を含む球磨川流域の抜本的治水対策に関する意見書」をまともな議論もないままに可決しました。さらに貴会は10月9日、「川辺川ダム建設に関する要望」を熊本県知事に提出しました。

また、貴職ら流域12市町村長が委員として参加する「令和2年7月球磨川豪雨検証委員会」（以下検証委）の2回目が10月6日に開催され、国土交通省は川辺川ダムが存在していれば浸水被害を6割減らせたなどとするシミュレーション結果を発表し、具体的な治水対策は新たな協議の場で検討することになりました。私たちが求めた流域住民の検証委への参加はとうとう実現しませんでした。国交省のシミュレーションは、どのような数値や手法をもとに計算されたのか、その過程が明らかにされておらず、科学的な検証とはとても言えないものでした。

まずもって、ダム問題や治水対策を争点にした選挙で選ばれた訳でもなく、被災住民を始めとする流域住民の声を聞いていない貴職らが、ダム建設に前のめりになっていることは、非常に不信感を抱かせるものであり、強く抗議します。なぜ、そこまでダムにこだわるのでしょうか。もし、ダムが良いというなら貴職らは住民に分かるように説明すべきです。貴職らの行動は、生活再建に追われている被災住民の意識とはかけ離れています。ダムを急ぐ別の理由があるのでしょうか。

また、貴職は6日の検証委で「流水型（ダム）に変えれば、（途中略）安全度は上がるのではないか」と発言していますが、流水型ダムを求める発言を突如、この場で言い出した理由は何故でしょうか。住民に分かりやすく説明していただけませんか。また、検証委の結論を是とするのであれば、川辺川ダムができたなら貴職らの自治体にはどんな効果があるのか、住民に説明していただきたいと思います。

ダム建設に前のめりな割りに、貴職は「今までのような反対が一番嫌ですよ。反対運動が起きたり、賛成反対と（割れた状態に）また戻ってしまえば、もうだめですよ」（10月2日付け毎日新聞）という発言もしています。2009年に国土交通省が中止した川辺川ダム問題の歴史において、反対運動が起こった発端は、行政の説明責任の不足、そして住民の声を聞こうとする姿勢の無さです。もし、貴職ら12市町村長が、このまま住民への説明責任を果たさず、住民の声を聞かず、具体的な治水対策を協議する段階に移行するのであれば、流域に再び、混乱と対立が引き起こされるでしょう。このことを貴職に強く申し入れるものです。

以上